私の祖父

土田耕平

青空文庫

私(わたし)は、幼いころのお父さん、お母さん、おばあさんの思ひ出は、はつきりしてをります中に、おぢいさんといふ人を少しも知りません。おぢいさんとはいつても、まだ四十二で亡くなつたのですから、私の生れるずつと先のことです。

このおぢいさんは、大そうえらい人だつたと、私の子供のじぶん、誰彼(だれかれ)にいひきかされました。

「なぜえらいのか。」

ときゝますと、

「大そう学問ができたから。」といふ返事をしてくれました。学問ができたからえらい、といふのでは、私は満足することができませんでした。

少し大きくなつてから、私は、こんなことをきかされました。おぢいさんは、どんなときにも、手から本をはなしたことがなかつた。外へ出るときにも、きつと本をふところへ入れてゐた。本をよまないときには、何かぢつと考へこんでゐた。考へ〳〵道を歩いてゐるうちに、一里も歩いてしまつて、気がついてみたら、とんでもないところへ来てゐた——こんな話をきかされたときは、おぢいさんつて変な人だなと思ひました。さういふのがえらいのかな、などとも考へました。

もう少し大きくなつてから、私はまたある人から、こんな話をきかされました。

おぢいさんは、あるとき、文字の話をしたとき、

「わしは、うそ字なら知らぬ。ほんとの字で知らぬ字は一字もない。」

といつたさうです。この話は、私をかんしんさせませんでした。

「なまいきなおぢいさんだな。」

とおもひました。

けれど、おぢいさんはまだ若くて死んだのだから、たまには、自慢もいつてみたのだらう、と後、大人になつてからは考へるやうになりました。

私が幼かつたころ、二階の間には塵(ちり)づいた漢籍が、山のやうにつんであつたことをおぼえてゐます。それがおぢいさんの読んだ本の、十分の一にも足らないといふのにはおどろきました。おぢいさんが亡くなつてから間もなく、私の家(うち)はおちぶれてしまひました。おぢいさんが心をこめてよんだ本も、大方、紙帳や壁などに貼(は)られてしまつたのださうです。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第九巻」ほるぷ出版
　　1977（昭和52）年11月20日初刷発行
底本の親本：「原つぱ」古今書院
　　1928（昭和3）年4月
入力：菅野朋子
校正：noriko saito
2011年10月10日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

私の祖父

土田耕平

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/